

25journal

society&business Tokyo25 journal

執筆協力 編集室システムU okamura.nobuyoshi@gmail.com

東京25区統一地方選ウォッチング 青梅市議選

立候補予定は33人 都ファ2議席成るか

玉石混交 経歴、主張見極めよう

統一地方選で行われる青梅市議選(定数24、4月24日投票)が混戦になりそうだ。2月16日、同市役所で実施された立候補予定者説明会には新人が13人、元職2人が出席した。迎え撃つ現職は18人が立候補を決めている。もちろん泡沫候補もいるが、これまで33人程度の立候補が見込まれる。

新人では都民ファーストの会の山崎善信氏、目黒絵理氏がそろって当選するかが注目の1つだ。都ファ代表の森村隆行都議のお膝元だけに当選は至上命題。両氏とも森村都議更には小池都知事を看板に地に足の着いた活動を展開する。

先ごろあった大勢待利明氏の市政報告会にもそろって顔を出し、市議選に向け決意を述べた。市議選の立候補を見送り、11月12日に投票される市長選への立候補を表明した大勢待氏とどう連携していくのかも興味深い。自民系では山田紀之氏が引退する天沼明氏の地盤を継ぐ形で順当にいけば当選圏入りを果たすだろう。任期途中で辞職した公明の結城守夫氏に代わって立候補する長谷川真弓氏も固い。現職4人と合わせ5議席を確保し、第2会派となる見込みだ。ただ、旧統一教会の選挙活動の在り方が社会問題化した中でそれなりの影響を懸念する声も関係者からも出ている。

当選圏が視野に入ってきた。NHK党が改名した政治家女子48から熊本あい氏が立候補する。インターネットを使ったイメージ選挙で、どこまで通用するか、候補を見極めることが重要で、有権者の常識が求められそうだ。

もう1人の元職、自民系の山崎勝氏は地方があり、この選挙で再起を図ることになる。現職では公明と同様、共産3人の全員当選が見込まれる。党首公選制など党改革を訴える著書を出した京都府の党員松竹伸幸氏を除名したことへの肯定、否定は西多摩・青梅地区委員会の中にもあるが、選挙への影響は少なそうだ。

岸田政権への逆風がなく、ある勢力へのプールの風もない中では自民系の現職8人も地盤、看板選挙に

背水の陣で選挙戦に臨む。大勢待氏にとっても市民フォーラム青梅の2人と都ファの2人の当選は市長選への試金石として大きな意味を持つ。

立憲民主の布谷和代氏は党勢次第だが、旧社会党時代からの支持層が一定数残っており、当選圏入りを目指すことになる。

諸派の飛騨紀子氏は熟慮の結果、今限りで引退する。大勢待氏と共に前回の1位、2位の6000票の行方が気になる。

市民フォーラム青梅の榎澤誠氏と片谷洋夫氏は大勢待氏が市議選立候補を見送ったことで、浜中市政に是非々々で臨む勢力として

青梅まちづくりネットワーク代表で地域活性化に取り組んでいる村野公一氏は独自の活動を展開。どこまで票を伸ばせるか、未知数だが、注目候補だ。

前回選挙の落選者組からは中野芳則氏と茂木亮輔氏が再挑戦する。中野氏は次点をバネに弾みを付けたいと思惑だったが、重なる地盤から元職で議長経験もある山本佳昭氏の立候補は想定外。保守票の掘り起こし合戦になるが、最後は地力勝負になる。茂木氏は今回維新公認になったこと

3期目自民系議員は議長視野の戦い

岸田政権への逆風がなく、ある勢力へのプールの風もない中では自民系の現職8人も地盤、看板選挙に

戸建住宅にお住まいの方 超高速インターネット光回線

ケーブルテレビは“テレビ”だけじゃない!

tnet光2.5G

初期設定 通割サポート 安心ネット出張訪問 0円!

最大通信速度 下り約2.5Gbps / 上り約1.25Gbps

最新情報 TCN 多摩ケーブルネットワーク 0428-32-1351

如是我聞

宗禅寺土曜講座聴聞記⑩



大倉さんは元青梅市郷土博物館資料室長。在任中、「桶、樽」そのの伝統と桶職人の技術など興味深い展示で主に地元の民俗を紹介。マスコミにも多く取り上げられた。「机」展は朝日新聞の天声人語にも載った。現在はNPO青梅まちづくり

羽村市川崎の宗禅寺 ネットワーク理事として「青梅うんちく散歩」のガイド役で活躍。著書に『青梅再発見』などがある。

青梅縞は絹と綿を交互に織った縞模様。特徴で、草木の染料を使用した。江戸期の織物の番付に載るほど広く流通した。大倉さんは「武蔵名将図会、奥多摩日原村の婦女の図に梅、西多摩の人たちは蚕からの絹糸も、工場からの木綿の紡績糸も扱う技術があった。青梅縞の木綿も容易に扱えたに違いない。今から290年前の『萬金産』

地方には太物を扱う婦人たちが存在した。青梅の織物の大ピンチだったが、「着物地の蚕からの絹糸も、工場からの木綿の紡績糸も扱う技術があった。青梅縞の木綿も容易に扱えたに違いない。今から290年前の『萬金産』

大倉さんは「戦後の物不足と復興、ぜいたく品と日用品の統制解除、テレビドラマや映画に青梅の夜具地が出たことで爆発的な需要を生んだ」とした。

また、青梅の織物の歴史を語る上で、青梅の織物業を組織化し、1905(明治38)年に青梅織物業同業組合を設立した井上倉吉と輸出綿織物に活路を見出した田中孫次郎の存在は忘れてはならないと紹介。2人の偉業を称えた。

講演を聞き、高井正俊住職は、「大倉さんは正しく青梅の語り部」と感想を語った。

※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。

青梅縞から夜具地へ 大ピンチをチャンスに変えた

元青梅郷土博物館資料室長の大倉十彌也さん

元青梅郷土博物館資料室長の大倉十彌也さん

羽村市川崎の宗禅寺 ネットワーク理事として「青梅うんちく散歩」のガイド役で活躍。著書に『青梅再発見』などがある。

青梅縞は絹と綿を交互に織った縞模様。特徴で、草木の染料を使用した。江戸期の織物の番付に載るほど広く流通した。大倉さんは「武蔵名将図会、奥多摩日原村の婦女の図に梅、西多摩の人たちは蚕からの絹糸も、工場からの木綿の紡績糸も扱う技術があった。青梅縞の木綿も容易に扱えたに違いない。今から290年前の『萬金産』

地方には太物を扱う婦人たちが存在した。青梅の織物の大ピンチだったが、「着物地の蚕からの絹糸も、工場からの木綿の紡績糸も扱う技術があった。青梅縞の木綿も容易に扱えたに違いない。今から290年前の『萬金産』

大倉さんは「戦後の物不足と復興、ぜいたく品と日用品の統制解除、テレビドラマや映画に青梅の夜具地が出たことで爆発的な需要を生んだ」とした。

また、青梅の織物の歴史を語る上で、青梅の織物業を組織化し、1905(明治38)年に青梅織物業同業組合を設立した井上倉吉と輸出綿織物に活路を見出した田中孫次郎の存在は忘れてはならないと紹介。2人の偉業を称えた。

講演を聞き、高井正俊住職は、「大倉さんは正しく青梅の語り部」と感想を語った。

※「如是我聞」では土曜講座を連載でレポートします。